

中央大学父母連絡会

Kusa no 草のみどり Midori

March

3

2020年3月

Vol.318

巻頭特集

1 公認会計士試験合格祝賀会
2 What's New! 商学部



Chuo University Parents Liaison Association



巻頭のことば
文学部教授／中村 昇

学部情報①
法学部／やる気応援奨学金 Report.....10
法学部法律学科3年／野村 知世

法学部だより
法学部事務室／佐々木 真美

学部情報②
経済学部／経済学部から世界をひらく.....12
経済学部国際経済学科3年／郭 諷臨

経済学部だより
経済学部事務室／早川 実希

学部情報③
商学部／私の商学部 LIFE2019.....14
商学部商業・貿易学科2年／塚野 愛果

商学部だより
商学部事務室／上村 敬央

学部情報④
理工学部／理工の最先端研究に迫る!.....16
理工学研究科物理学専攻博士課程前期課程2年／山田 博之

理工学部だより
理工学部特任教授／石田 靖博

学部情報⑤
文学部／文学部生のリアルな! 学生生活.....18
文学部人文社会科学中国言語文化専攻4年／齊藤 菜

文学部だより
文学部事務室／曾我 文子

学部情報⑥
総合政策学部／プロジェクト奨学生の眼.....20
総合政策学部国際政策文化学科4年／細田 佳奈
総合政策学部教授／中川 恭明

総合政策学部だより
総合政策学部国際政策文化学科4年／菅野 祐太

学部情報⑦
国際経営学部.....22

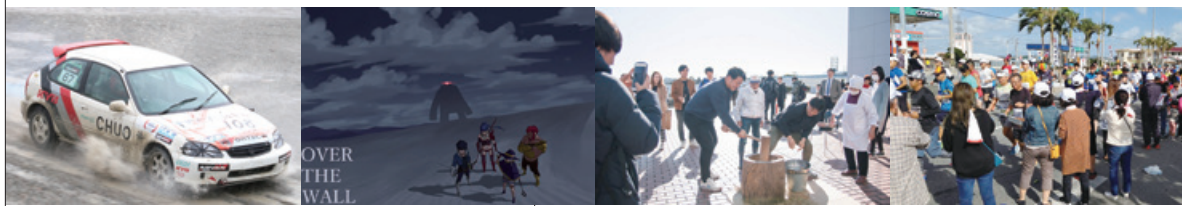
国際経営学部だより
国際経営学部国際経営学科1年／今村 心祐

学部情報⑧
国際情報学部.....23

CONTENTS

特集 Special feature

02 ① 公認会計士試験
合格祝賀会
04 ② What's New!
商学部



国際情報学部だより
国際情報学部国際情報学科1年／佐藤 生成

わたしたちのゼミへようこそ.....24
総合政策学部国際政策文化学科4年／長岡 瑞穂
総合政策学部准教授／山城 雅江

まるちあんぐる.....26
法学部教授／原田 剛

GO GLOBAL 中央大学から世界へ。.....30
国際センター NEWS
理工学生の国際活動報告
理工学部経営システム工学科2年／追中 理沙

キャリアインフォメーション.....32

Messages from OB/OG.....36
株式会社プラチナム／宮下 敬

中スポ PLUS.....38
自動車部

学友会 文化系サークル紹介.....41
中央大学学芸連盟「アニメーション研究会」

ボランティア通信.....42
経済学部経済学科4年／高本 翔太
文学部人文社会科学国文学専攻4年／桑田 百合子
文学部人文社会科学社会学専攻4年／千葉 麻由

学生部掲示板.....44

教育環境充実資金 寄付者芳名.....46

CAMPUS NEWS.....47

FUBOREN NEWS.....52
父母連絡会事務局・その他支部からのお知らせ

オススメ書籍紹介

GLOMAC

Global Management of Chuo University

いまむら しんゆう
今村 心祐国際経営学部
国際経営学科1年
北海道北見柏陽高校出身

ホワイトハウスをバックに記念撮影

国際経営学部第1期生の活動報告

北の大地からワシントンD.C.へ

初めての海外はワシントンD.C.

私は、2019年の夏に国際経営学部の短期留学プログラムでワシントンD.C.を訪れました。今まで日本から一歩も出たことがなかった私にとって、人種や文化の違う場所での研修は、自分の将来について見つめ直す良い機会となりました。

日本の労働環境改善のカギ

まず私は、人の働き方に感銘を受けました。アメリカ人の人間味あふれる業務態度は、お互いがビジネスの関係以前に人間同士であることを思い出させてくれたからです。

それは、私が現地に向かうためユナイテッド航空の旅客機に搭乗したときのことでした。出発前の機内では客室乗務員の女性が荷物を客席上の収納棚に詰めていました。その際、彼女は荷物が収納棚にびったりと入るたび、「なんてすばらしい日なの!」とうれしそうにつぶやいていたのです。おそらくこれはマニュアルにはない彼女の癖だと思われませんが、私の心はどこか懐かしいようなあたた

かさにも包まれました。日本でそのような気持ちになれたのは地元の個人経営のカフェくらいで、アメリカの大手航空会社の機内で感じられるとは思いませんでした。

今の日本には「社畜」や「過労死」という言葉があります。特に、過労死はそのままだ「Karoshi」として英語圏でも認知されている始末です。私はまだ大学生なのでオフィス内の実状はわかりかねますが、自分を尊重しつつ相手も尊重するという、人として当然の行為ができさえすれば、日本の労働環境は改善されるのではないかと推測します。

グローバル人材の心得

ワシントンD.C.での研修で出会った方々は、どなたも年齢の差を感じさせないほどの熱意がありました。そんな方々との交流を通して得たものは、世界を相手に活動するための心構えです。

「あなたたちはまだ失うものがないのだから守りに入らず挑戦しなさい」という言葉が心に残っています。言葉そのものの力強さだけでなく、言葉を聞いた回数が多いのが心に残っている理由でしょう。ワシントンD.C.で活躍する方々だけでなく、今回の留学を引率してくださった綿貫先生でさえ、同じようなことをおっしゃっていました。

私が綿貫

先生に世界銀行内のカフェで、国際的な人材のめざし方について伺ったときのことです。先生はアメリカの大学院を卒業後、発展途上国に対する開発援助に携わっていたこともあり、自身の経験を交えて答えてくださいました。先生曰く、日本人は安定志向で挑戦することを好まない傾向があるから、国際的な人材が育ちづらいのだ、と。



研修先での集合写真

以上のことを踏まえ、世界を相手に活躍するための秘訣は、不安に負けない心の強さと行動力であると考えています。

決意

私は日本をより良い国にするために尽力するつもりです。恩返しもかねて、まずは地元の北海道から挑戦していこうと思っています。